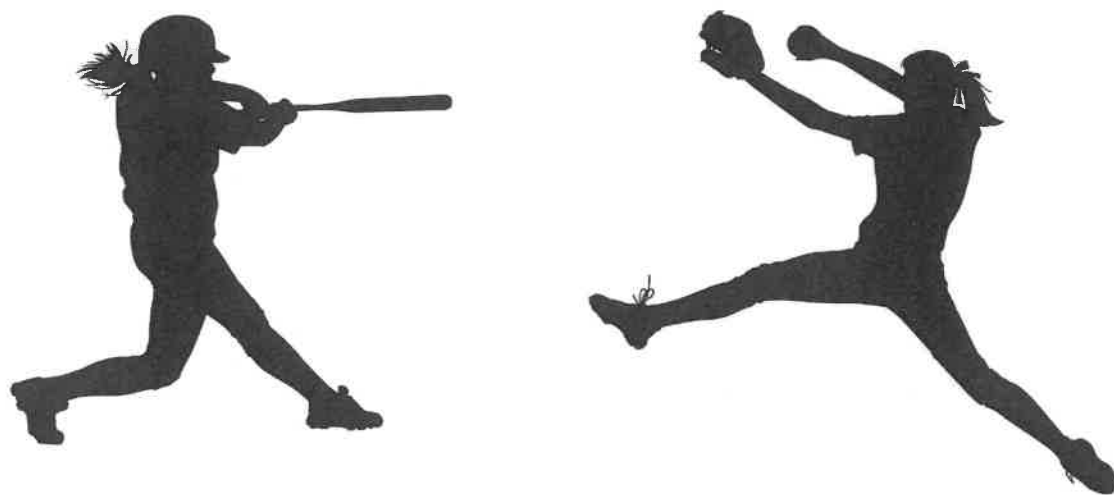


# 埼玉県ソフトボール協会創立70周年 記念式典・祝賀会



日時 令和6年3月16日(土) 17:30  
会場 浦和ワシントンホテル3F プリムローズ

埼玉県ソフトボール協会

# 埼玉県ソフトボール協会 創立70周年記念式典

## 式 次 第

### <記念式典> 17時30分～

1	開会のことば	埼玉県ソフトボール協会	副会長	田中 勉
2	表 彰	埼玉県ソフトボール協会	会長	鈴木 征
3	あいさつ	埼玉県ソフトボール協会	会長	鈴木 征
4	70年の沿革	埼玉県ソフトボール協会	理事長	磯谷 理義
5	祝 辞	(公財)日本ソフトボール協会	会長	三宅 豊 様
		埼玉県議会	副議長	岡田 静佳 様
		関東ソフトボール協会	副会長	井之上 哲夫 様
6	来賓紹介			
7	祝電披露			
8	謝 辞	戸田中央メディックス埼玉	監督	福田 五志 様
9	閉会のことば	埼玉県ソフトボール協会	副会長	石田 俊幸

### <祝賀会> 18時00分～

1	開会のことば	埼玉県ソフトボール協会	副会長	豊田 孝司
2	あいさつ	埼玉県ソフトボール協会	理事長	磯谷 理義
3	祝 辞	(公財)埼玉県スポーツ協会	会長・ 埼玉県知事	大野 元裕 様
4	乾 杯	埼玉県ソフトボール協会	顧問	山崎 良夫
5	祝 宴			
6	お祝いのことば	(公財)日本ソフトボール協会	事務局長	矢端 信介 様
		戸田中央メディックス埼玉	部長	関口 浅次 様
		埼玉県庁クラブ	総監督	桑名 卓也 様
7	手 締 め	関東ソフトボール協会	副会長	有山 充剛 様
		埼玉県ソフトボール協会	監事	山本 和夫
8	閉会のことば	埼玉県ソフトボール協会	副理事長	関 清 隆

# 埼玉県ソフトボール協会 創立70周年特別表彰受賞者

(順不同)

## ・チーム 8チーム

受賞者	戦績		
浦和SG	第22回全日本シニア優勝	平成20年	
戸田中央総合病院	第51回全日本実業団女子優勝	平成23年	
ニューフレンズ	第10回全日本エルデスト優勝	平成23年	
少年男子	第68回国民体育大会優勝	平成25年	
グリーンハート	第17回日本スポーツマスターズ男子優勝	平成29年	
前田フェニックス	第22回日本スポーツマスターズ男子優勝	令和4年	
成年女子	鹿児島特別国民体育大会総合優勝	令和5年	優勝
少年女子			第3位

## ・役員 5名

受賞者	所属	授賞理由
館岡 憲一	県協会広報委員長	永年役員（平成18年以降現在在職）
金子 久夫	県西支部事務局長	
本多 英男	県北妻沼支部	障がい者スポーツを理解し、永年にわたり『彩の国ふれあいピック フットソフトボール大会』開催に尽力している
荒井 明二		
榎本 英一		

## ○感謝状（4社）

- ・ミズノ株式会社
- ・ナガセケンコー株式会社
- ・内外ゴム株式会社
- ・名鉄観光サービス株式会社

# 埼玉県ソフトボール協会創立70周年に寄せて

埼玉県ソフトボール協会

会長 鈴木 征

埼玉県ソフトボール協会は、昭和29年（1954）1月16日に創設され、今回創立70周年を迎えることとなりました。創立50周年の記念式典（平成17年・2005）後の20年について振り返ってみたいと思います。

## ◎現状と課題

---

50周年時、埼玉県の登録チーム数は610チームで全国1位、審判員登録数も4,223人と全国2位の数でした。その後も皆さんのご努力下に常に全国トップレベルの登録数を維持できていることは素晴らしいことだと思っています。現在も、登録チーム数では、愛知県は、他の県と異なり中学校の登録も含めているので埼玉県は愛知県に続き2位ですが、登録選手数は中学校の分を差し引くと埼玉県が全国1位になっています。

しかし、現在の社会状況は、若年層の人口減少が続いており、ソフトボールに限らずほとんどの競技団体が、競技人口の維持が重大な課題となっています。

また、令和4年、文部科学省は中学校の部活動を民間移行するという方針を打ち出しました。今後どのように対応するかは、すべての競技団体に大きな課題となっています。中学校の部活動がなくなれば競技人口の減少は避けられないこととなります。埼玉県ソフトボール協会としても、県スポーツ協会・県中体連ソフトボール専門部と何度も協議を重ねている所ですが、文科省が示している総合型地域スポーツクラブや、スポーツ少年団等に民間移行した場合、引き受けた団体が活動を実施するグラウンドを持たないということが重大な懸案となっております。日本スポーツ協会も含め、いろいろな方が、民間移行ではなく民間展開、地域展開という形にして、外部指導者等民間の協力を得ながら、推進すべきという方向を打ち出しています。ソフトボールにおいても、現時点で大きな課題となっていて真摯に取り組んでいるさなかですので、皆さんのご協力をお願いしたいと考えています。

## ◎埼玉県ソフトボール協会の体制と活躍の状況

---

50周年後、土屋会長・生方理事長の体制でスタートしましたが、その翌年平成18年度から、生方理事長が38年間勤められた理事長から、副会長になられ、当時副理事長であった私がおそのあとの理事長を務めることとなりました。

私が新理事長の時に掲げたのが、「競技スポーツとしての発展のほか、生涯スポーツとしてのソフトボールの普及」ということで小学校の低学年のミニソフトボールから、年配者向けの

ジョイフルソフトボールの導入普及であり、人口増加が頭打ちとなる世の中で、ソフトボールのさらなる発展を目指そうとしたものでした。

平成19年には、私が総監督を務めた世界女子ジュニアで日本が優勝、第1回の男子ワールドカップで日本が優勝、国内では、インターハイで星野高校が準優勝、春季小学生女子で川口JGSCが準優勝、全日本シニアで浦和SGが準優勝と埼玉勢が大活躍しました。

更に、平成20年（2008）には北京オリンピックで日本が初優勝、悲願達成でした。埼玉県勢も全日本シニアで浦和SGが初優勝、高校女子選抜で埼玉栄が準優勝、全日本中学生女子で白岡コスモスが3位と頑張り、日本も埼玉もソフトボール界は、活発に活動を展開していました。

しかし、同年は、42年間会長を務められた、元参議院議長・埼玉県知事の土屋義彦氏が、また初代理事長長谷川和夫氏もご逝去され深い悲しみに包まれました。

その後、高橋勝男氏が新会長に就任され、新たなスタートを切りました。

また、同年には、埼玉県で「彩夏到来08埼玉総体」という高校総体が埼玉県で開催され鴻巣市・坂戸市が中心となって、大成功を収めました。

平成21年22年（2009・2010）は、日本女子ソフトボールリーグの開幕節が西武ドームで開催されました。私が日本ソフトボール協会のリーグ委員長として実現できたことで、嬉しい出来事でした。

平成21年には新潟国体で少年女子が優勝、成年男子がベスト8。また、インターハイ女子では星野高校が優勝、全国中学校体育大会では、川口在家中学が準優勝。平成22年には千葉国体で少年男子が優勝と活躍しました。

平成22年度からは、私が副会長となり、理事長には武藤幸政氏が就任するとともに、県南支部から、さいたま市が独立、中央支部として新たなスタートを切りました。また、この年は、学校体育の授業にソフトボールを含むベースボール型種目が必修科目となり大きな希望が生まれました。さらに、技術向上に伴い高校女子の投球距離が13.11mに変更されたのも大きな出来事でした。

埼玉県勢は全日本実業団女子で戸田中央総合病院が優勝、全日本エルデストではニューフレンズが優勝と全国で活躍しました。

平成24年（2012）は、女子世界選手権で日本が大阪大会以来42年ぶりで優勝を果たしました。埼玉では、全日本大学選手権が男子・坂戸市、女子・東松山市で開催されました。

平成25年（2013）には、東京国体で少年男子が優勝、都道府県対抗中学生女子で埼玉選抜が準優勝、全日本エルデストでニューフレンズが準優勝、全日本中学生女子で埼玉北ウィングスが準優勝と見事な活躍がありました。

平成26年（2014）は、全日本大学選手権女子で東京国際大学が初優勝の快挙、全日本中学生男子秩父ユースSCが優勝、全日本中学生女子では埼玉レッドステッドがベスト8、全日本ハイシニアでは入間シニア3位、インターハイ男子埼玉栄3位、全日本壮年グリーンハート3

位と多方面で好成績を上げました。

平成28年（2016）からは、武藤氏に代わり磯谷氏が理事長となり新体制がスタートしました。

平成29年（2017）では全日本レディースの大会が鴻巣・北本両市で開催されました。また、チームはマスターズ男子でグリーンハートが優勝、全日本エルデストで川口ハーモニーが優勝、全日本大学選手権で城西大学3位と各方面で好成績を残しました。

更に平成30年（2018）は、戸田中央総合病院が全日本総合女子で準優勝。令和元年（2019）は、全日本中学生女子で埼玉ウィングス、全日本総合女子で戸田中央、マスターズ男子で大宮クラブ、全日本シニアで浦和SGがいずれも3位となりました。

令和2年（2020）には、高橋会長に代わり浅見茂氏が県協会の会長に就任、浅見・磯谷体制がスタートしました。

令和3年（2021）コロナ禍で1年遅れの開催となった、東京オリンピックで日本が金メダル獲得、日本中が歓喜の輪に包まれました。埼玉県勢は春季全日本小学生女子で深谷ジュニアが3位、全日本中学生女子で埼玉レッドスティードが優勝、全日本壮年でグリーンハートが準優勝と活躍しました。

一方、この年、永年、理事長として当協会の礎を築いた生方博志氏のご逝去されました。

私個人としても昭和43年にともにアメリカオクラホマで開催された第2回男子世界選手権に参加するとともに、埼玉県ソフトボール協会の役員として、また、日本ソフトボール協会の役員として共に活動してきました。何度も自宅にお伺いするなど子供のようにかわいがっていただきましたので、大変な悲しみでした。

令和4年（2022）には、会長として大活躍してきた浅見会長が突然亡くなり深い悲しみに包まれました。現役時代、世界選手権の日本代表選手として、埼玉県庁のエース、監督として日本リーグ・国体などで活躍してきました。特にいま世界のほとんどの投手が投げているパームのバックグリップで投げるチェンジアップの投げ方は、浅見氏が編み出し、浅見ボールとして、埼玉から日本へ、さらに世界中に広がったものです。また、子供たちの育成指導に全力を投じてきて、これからの更なる活躍が期待されていたにもかかわらず残念でなりません。

このような中でも、県協会としては全日本実業団女子選手権を毛呂山町で開催しました。

チームは、全日本高校選抜男子で秩父農工科学が3位、全日本中学生女子で埼玉ウィングスが3位、マスターズで前田フェニックスが優勝、ねんりんピックで入間クラブが3位と活躍しました。

令和5年（2023）には、浅見氏の後任として、私が後を引き受けることになり、磯谷理事長と新体制をスタートすることとなりました。

令和5年は、最後の国体（令和6年からは国民スポーツ大会）の名称で行われた、鹿児島特別国体で、成年女子が優勝、少年女子が3位になりソフトボールの種目で総合優勝となりました。また、インターハイ女子では星野が3位、全日本総合女子では戸田中央総合病院が準優勝、

全日本ハイシニア越谷老童が3位、全日本シニアではSC秩父が3位と活躍しました。

協会としては、女子JDリーグをさいたま市・朝霞市・本庄市で開催するとともに、男女のリーグの決勝トーナメントを同一県で実施するというかつてない事業を受けることになり、ともに大成功を収めました。県南支部・朝霞市、中央支部・さいたま市の運営の素晴らしさには心から敬意を表したいと思います。

## ◎20年を振り返って

この20年間の成績を中心に振り返ってきましたが、この間長きにわたり、女子の日本リーグ（現ニトリJDリーグ）、男子の日本リーグや諸大会で活躍をつづけられ、また、地元チーム・子供たちの技術指導などを通して競技力向上に尽力されてきた戸田中央メディックス埼玉・埼玉県庁クラブの活躍には感謝の気持ちと共に拍手を送りたいと思います。また、県内高校の中心として活躍されてきた星野高校・埼玉栄高校・花咲徳栄高校・秩父農工科学高校・熊谷工業高校など、これまでの活躍に敬意を表するとともに今後の活躍に大きな期待を持ちたいと思います。

埼玉県ソフトボール協会としては、私が2005年当時日本ソフトボール協会の広報委員長をしていたこともあり、埼玉県の広報体制を強化することとし、機関誌ソフトボール埼玉の発行の推進充実と、インターネットの普及に伴い、ホームページの開設に取り組みました。ホームページは平成16年（2004）9月にスタート、その後広報紙は平成27年に154号を以って廃刊となりましたが皆様に的確な情報をお届けしてきました。その後ホームページはさらに充実され、素晴らしい内容となっています。埼玉県の館岡氏を中心とした広報委員会の努力に深く感謝すると共に、普及対策を長年にわたりリードしてきていただいた大芦普及委員長を中心とした普及委員会の活動にも感謝いたします。

また、埼玉県ソフトボール協会の誇るべき活動の一つとして、他県にはない「競技企画委員会」の活動があります。生方理事長時代の終盤に、審判が石灰まみれになって試合に臨むのはいかなるものかと協議を重ね、もっと審判員の活動に敬意を払うべきとして実行に移されたものです。その後、当委員会は大会の設営準備、競技実施計画の策定など大変重要な役割を果たしていて、埼玉県が全国に誇ってよい組織だと信じています。

また、磯谷理事長が日本ソフトボール協会の中で、振興対策など重要な業務を担当されており、埼玉県としては最新の情報を得られるとともに、日本ソフトボール協会と手を取り合って業務を推進できるという大変なメリットももたらしています。今後も日本ソフトボール協会と一体となり、ソフトボールの普及発展に取り組みたいと思っています。

現在は、冒頭でも触れましたが、その後の国内人口の減少や、近年のコロナ禍等により、ソフトボールに限らず、競技人口は減少しているのが現実です。

皆さんと共にロサンゼルスオリンピックを楽しみにしながら埼玉県ソフトボール協会の100周年に向け、さらなる発展を目指してゆきたいと思います。